

福智町のチャレンジ2年目、平成19年度のまちづくりがスタートしました。

依然として、行財政改革と合併効果を表す前の厳しい財政状況です。

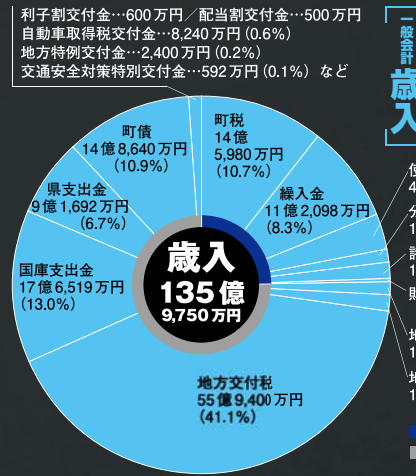
町では、前年度より約17億5千万円削減した一般会計当初予算を編成。

特別会計をあわせた予算総額、約218億5千万円で最大の効果を図ります。

予算

平成19年度

行財政改革の答申を受け、実施計画を策定する平成19年度。改革の本格実施前年にあたる本年度は、事業を抑えた緊縮型予算（前年度比△11.4%）で正念場を切り切ります。19年度末の地方債（借金）残高は前年度末に比べ約6億5千万円減額の255億円、基金の総合計残高は122億円が見込まれています。



前年度より約17億5千万円予算規模を縮減、不足した7億6千6百万円を基金取り崩しで補う

福智町発足の年である前年度（18年度）の一般会計予算は、旧町からの事業を継続して実施することとしていたため、約153億円となっていました。平成19年度においては、事業費を抑えた予算編成により、前年度よりも約17億5千万円削減して、総額約136億円となっています。しかしながら、歳入グラフの繰入金金の

実質的な自主財源は全体のわずか16.7%

歳入は大きく「自主財源」と「依存財源」に分けられることができます。この自主財源が多いほど、行政活動の自主性と安定性を確保することができます。福智町の自主財源は全体の25%にとどまっており、依然として財政基盤の弱さを示しています。さらに、自主財源のうちの繰入金、11億2千万円は町の基金を取り崩した金額なので、基金取り崩し分を除けば全体の16.7%しかありません。なお、町税が前年度に比べ約7千万円増えています。これは、

23億8千万円を返済に充てる

左にある円グラフは、上が「目的別」で下が「性質別」、ともに一般会計予算の歳入を表したものです。目的別歳入では、行政サービスの水準や行政上の特色などを知ることができます。性質別歳入では「義務的経費」「投資的経費」「その他の経費」に区分することができます。義務的経費は、人件費、扶助費、公債費で、支出が義務づけられている経費で

国（所得税）から地方（住民税）への税源移譲にもなる増額が主な理由です。

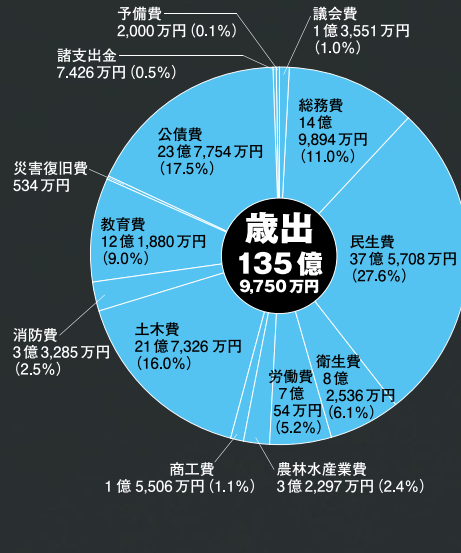
投資的経費は、道路や公共施設の建設などといった公共工事にかかる経費で、普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費から構成されます。福智町の義務的経費は約68億6千万円で50%を超え、そのうちの公債費（借金を返すお金）は、約23億8千万円（17.5%）をしめています。

診療所と国保の会計がピンチ

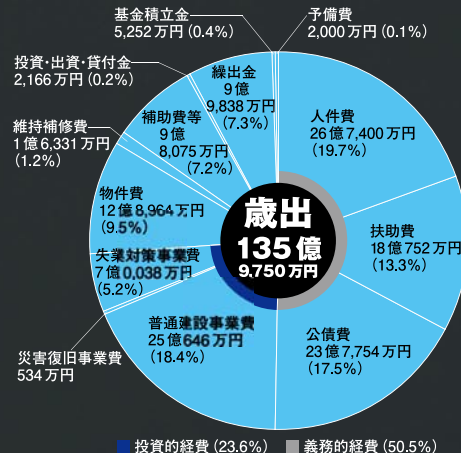
特別会計は特定の事業を行うために、特定の歳入・歳出を一般会計と区分して経理するための会計です。福智町には4つの特

特別会計・企業会計	予算額 ※()は前年度比
老人保健特別会計	31億 3,473万円(△1.2%)
国民健康保険福智町立診療所事業特別会計	11億 4,049万円(+11.2%)
同和地区住宅新築資金等貸付事業特別会計	2億 9,440万円(△20.6%)
国民健康保険事業特別会計	32億 0,697万円(+22.2%)
水道事業会計(収益的収支)	5億 8,077万円(△2.5%)

一般会計 歳出 目的別



一般会計 歳出 性質別



地方債（借金）残高の推移	金額
平成17年度決算額	約 238 億円
平成18年度見込額	約 261 億円
平成19年度見込額	約 255 億円

基金（貯金）総合計残高の推移	金額
平成17年度決算額	約 116 億円
平成18年度見込額	約 133 億円
平成19年度見込額	約 122 億円